

岩手医科大学附属病院 公的医療機関等2025プラン

平成 2 9 年 1 0 月 策定

【岩手医科大学附属病院の基本情報】

医療機関名：岩手医科大学附属病院

開設主体： 学校法人 岩手医科大学

所在地： 岩手県盛岡市内丸19番1号

許可病床数：1,166床

（病床の種別）

一般病床：1,088床 精神病床：78床

（病床機能別）

高度急性期病床：996床 急性期病床：92床 [平成28年度病床機能報告]

稼働病床数：1,134床

（病床の種別）

一般病床：1,062床 精神病床：72床

（病床機能別）

高度急性期病床：970床 急性期病床：92床 [平成28年度病床機能報告]

診療科目：内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、循環器内科、内分泌内科、腎臓内科、呼吸器内科、心療内科、アレルギー科、血液・腫瘍内科、神経内科、老年内科、外科、消化器外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、気管食道外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、形成外科、頭頸部外科、美容外科、産婦人科、小児科、循環器小児科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、循環器放射線科、麻酔科、精神科、救急科、臨床検査科、病理診断科、緩和ケア内科、歯科、矯正歯科、小児歯科、 歯科口腔外科

職員数（平成29年8月1日付）：

- ・ 医 師 医科：608名、歯科：174名（いずれも非常勤医師を含む）
- ・ 看護職員 看護師：1,295名、看護補助者：52名
- ・ 専門職 薬剤師：76名、臨床検査技師：80名、診療放射線技師：65名
栄養士：19名、臨床工学技士：27名、理学療法士：12名
作業療法士：5名、言語聴覚士：6名、視能訓練士：6名
歯科衛生士：34名、歯科技工士：9名
- ・ 事務職員 157名（病院事務部のみ）

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

以下、岩手県地域医療構想（平成28年3月策定）を基に記載しています。

（人口の将来動向）

- 盛岡構想区域の総人口は、平成37年に平成22年比－8.3%、平成52年には－20.7%に減少すると予測されています。
- 盛岡構想区域の65歳以上人口は、平成37年に平成22年比＋28.5%、平成52年には＋31.4%に増加すると予測されています。
- 盛岡構想区域の75歳以上人口は、平成37年に平成22年比＋43.2%、平成52年には＋58.4%に増加すると予測されています。

（入院医療の現状）

- 入院医療の完結率は全体で98.2%となっており、病床機能区分ごとに見ても他の構想区域と比較して高い水準にあるほか、隣接する岩手中部構想区域、宮古構想区域、二戸構想区域からの患者の流入が多くみられます。

（病床機能報告と必要病床数の比較）

- 病床機能報告による病床機能ごとの病床数と平成37年の必要病床数を比較すると、高度急性期、急性期及び慢性期が過剰となり、回復期が不足すると見込まれます。

② 構想区域の課題

以下、岩手県地域医療構想（平成28年3月策定）を基に記載しています。

- 過剰となることが予測される高度急性期、急性期及び慢性期の病床を、不足することが予測される回復期の病床に転換していく必要があります。
- 平成37年にかけて75歳以上人口が大きく増加し、更に平成52年にかけても増加が続くと予測されるため、住民の高齢化に伴って増加する疾病への対応が必要です。
- 三次保健医療圏（全県）で対応する高度急性期をはじめ全県の医療機能を支える中核的な役割が求められます。
- 特定行為を行う看護師など、不足が予想される在宅医療等へ供給する人材の育成を促進、拡大を図る必要があります。

盛岡構想区域のH26年度病床機能報告とH37年度必要病床数の比較 [単位：床]

| 構想区域 | 機能区分 | H26 病床機能報告 「許可病床」 | | H37 必要病床数 C | 差引 B－C |
|------|-------|----------------------|---------|-------------------|-----------|
| | | H26時点 A | H32時点 B | | |
| 盛岡 | 高度急性期 | 1,773 | 1,773 | 547 | 1,226 |
| | 急性期 | 1,821 | 1,683 | 1,553 | 130 |
| | 回復期 | 870 | 900 | 1,861 | ▲ 961 |
| | 慢性期 | 1,717 | 1,780 | 1,224 | 556 |
| | 無回答 | 39 | 84 | — | 84 |
| | 合計 | 6,220 | 6,220 | 5,185 | 1,035 |

資料：厚生労働省「必要病床数等推計ツール」、平成 26 年度病床機能報告（許可病床に係る報告値）注 1） この他、1 病院及び 10 有床診療所について集計不能等となっている。

盛岡構想区域の H25・H37 年における慢性期・在宅医療等の医療需要の比較
[単位：人／日]

| 構想区域 | 医療機能 | 平成25年の 医療需要 | 平成37年の 医療需要 | 差引 |
|------|-------|----------------|----------------|---------|
| 盛岡 | 慢性期 | 1,191.8 | 1,125.8 | ▲ 66.0 |
| | 在宅医療等 | 4,187.9 | 5,591.4 | 1,403.5 |
| | 合計 | 5,379.7 | 6,717.2 | 1,337.5 |

資料：厚生労働省「必要病床数等推計ツール」

注 1） 在宅医療等の需要の比較については、平成 25 年度の医療機関所在地ベースの需要と平成37 年の患者所在地ベースを比較したもので、前提が異なることから、参考値である。また、平成25年、平成37年ともに療養病床への入院患者のうち医療区分 1 の 70%を含めた数値である。

③ 自施設の現状

■「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」の理念の下、次の6点を基本方針に掲げ、地域医療の中核を担う特定機能病院としての役割を果たしている。

- ◇基本方針
- ①患者様本位の安全な医療の実践
 - ②高度で良質な医療の実践
 - ③人間性豊かな優れた医療人の育成
 - ④高度先進医療の開発と推進
 - ⑤地域医療機関との連携
 - ⑥地域医療への貢献

■病床機能別で一般病床に相当する1,088床のうち、各入院料を下記の通り届出している。

(※精神病床は特定機能病院入院基本料精神病棟10対1入院基本料：78床(1病棟))

1. 特定機能病院入院基本料一般病棟7対1入院基本料：951床(17病棟)
2. 救命救急入院料1：16床(1病棟)
3. 特定集中治療室管理料4：26床(2病棟)
4. ハイケアユニット入院医療管理料1：9床(1病棟)
5. 総合周産期特定集中治療室管理料1：9床(1病棟)、同管理料2：21床(1病棟)
6. 新生児治療回復室入院医療管理料：16床(1病棟)
7. 小児入院医療管理料2：40床(1病棟)、同管理料4：45床(一般病棟のうち1病棟で当該管理料算定病室を持つため再掲)

<平成28年度実績>

| | 一般病床 | 精神病床 |
|-----------|--------|-------|
| 平均在院日数 | 13.4日 | 36.9日 |
| 病床稼働率 | 80.8% | 69.2% |
| 1日平均入院患者数 | 858.1人 | 49.8人 |

<重症度、医療・看護必要度>(直近1ヶ月間)

一般病棟：27.7%、特定集中治療室：97.2%、83.5%(2病棟分)、ハイケアユニット病棟：97.1%

■当院は特定機能病院であり、岩手県高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター等の機能により、高度急性期医療を担う医療機関であることから、病床機能については「高度急性期病床」を中心としている。

■5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)については、対応する診療科を備えている他、都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を担っている。5事業(救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児(救急)医療)については、高度救命救急センター、災害拠点病院、総合周産期母子医療センターといった指定を岩手県より受けており、救急医療等確保事業を行っている。

■現在、地域医療連携センターを設置し、地域医療連携の取り組みを進めている。例として地域の医療機関と連携パスを共有し、がん治療に関する連携体制を取っている(がん治療連携計画策定料)他、感染防止対策における他医療機関とのカンファレンス等、多方面の取り組みを実施している。

④ 自施設の課題

- 地域の医療需要の減少が見込まれることから、現状の体制を維持すべきか、縮小すべきか検討が必要であること。
- 近隣の岩手県立中央病院との機能の一部重複があることから、特定機能病院としての役割と地域医療支援病院の役割を踏まえた棲み分けが必要であること。
- 地域で不足している、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる回復期医療機関の整備に向けて、当院の役割の検討が必要であること。
- 特定行為を行う看護師など、不足が予想される在宅医療等へ供給する人材の育成を促進、拡大のために、必要な資源（人材、財源等）が不足していること。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 脳卒中及び心血管疾患への対応を中心とした急性期医療の提供体制は維持していくこと。
- 地域で不足が見込まれる回復期機能の一部を担うこと。
- 在宅医療等に必要な人材の育成（看護師の特定行為研修など）を進めること。
- 周産期医療などの提供体制は、施設と人材の充実を図ること。
- 3次救急医療の提供体制は維持すること。

② 今後持つべき病床機能

- 現在の病床は、一定程度維持する必要があるが、規模の適正化を検討すること。
- 回復期機能を提供する病棟を整備すること。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

| | 現在 (平成28年度病床機能報告) | | 将来 (2025年度) |
|-------|----------------------|---|----------------|
| 高度急性期 | 996 床 | → | 862 床 |
| 急性期 | 92 床 | | 0 床 |
| 回復期 | 0 床 | | 45 床 |
| 慢性期 | 0 床 | | 25 床 |
| (合計) | 1,088 床 | | 932 床 ※ |

※精神病棟を除く。

＜年次スケジュール＞

| | 取組内容 | 到達目標 | (参考) 関連施策等 |
|-----------------|------------------------------|---------------------------------|---|
| 2017年度 | ■地域医療構想調整会議における合意形成に向けて検討する。 | ■地域医療構想調整会議において病床の在り方に関する合意を得る。 | <div>集中的な検討を促進 2年間程度で</div> <div>第7期 介護保険 事業計画</div> <div>第7次医療計画</div> |
| 2018年度 | ■地域医療構想調整会議における合意形成に向けて検討する。 | ■地域医療構想調整会議において病床の在り方に関する合意を得る。 | |
| 2019～2020 年度 | | ■2019年9月 新病院開院 (新病棟稼働) | <div>第8期 介護保険 事業計画</div> |
| 2021～2023 年度 | ■他の医療機関や施設との連携を強化する。 | | |

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

| | 現在 (本プラン策定時点) | | 将来 (2025年度) |
|-------|------------------|---|---|
| 維持 | | → | |
| 新設 | | → | |
| 廃止 | | → | |
| 変更・統合 | 心血管・腎・内分泌内科 | → | 腎・高血圧内科（変更） 糖尿病・内分泌内科（変更） 循環器内科（統合） |

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：80%
- ・ 手術室稼働率：
- ・ 紹介率：
- ・ 逆紹介率

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：
- その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）